

2026年9月期 第2四半期 決算説明会

三洋貿易株式会社（証券コード：3176）

2026年5月18日

本日のトピックス

1 売上、営業利益は前期比伸長。上期業績を踏まえ、通期業績予想を上方修正

2 中東情勢の影響は2Q時点ではなし

3 資本政策を着実に実施、資本コストや株価を意識した経営を計画的に実行

4 SV2028※の重要目標に向け、既存事業伸長・新規事業育成の二刀流を中核とした成長戦略を着実に推進

※SV2028:SANYO VISION 2028。23年11月に公表した5か年長期経営計画
(以下、同)

目次

- 01 2026年9月期 上半期実績
- 02 2026年9月期 通期業績予想
- 03 資本政策関連
- 04 SV2028達成に向けて

01

- 01 2026年9月期 上半期実績
- 02 2026年9月期 通期業績予想
- 03 資本政策関連
- 04 SV2028達成に向けて

2026年9月期 上半期 連結実績

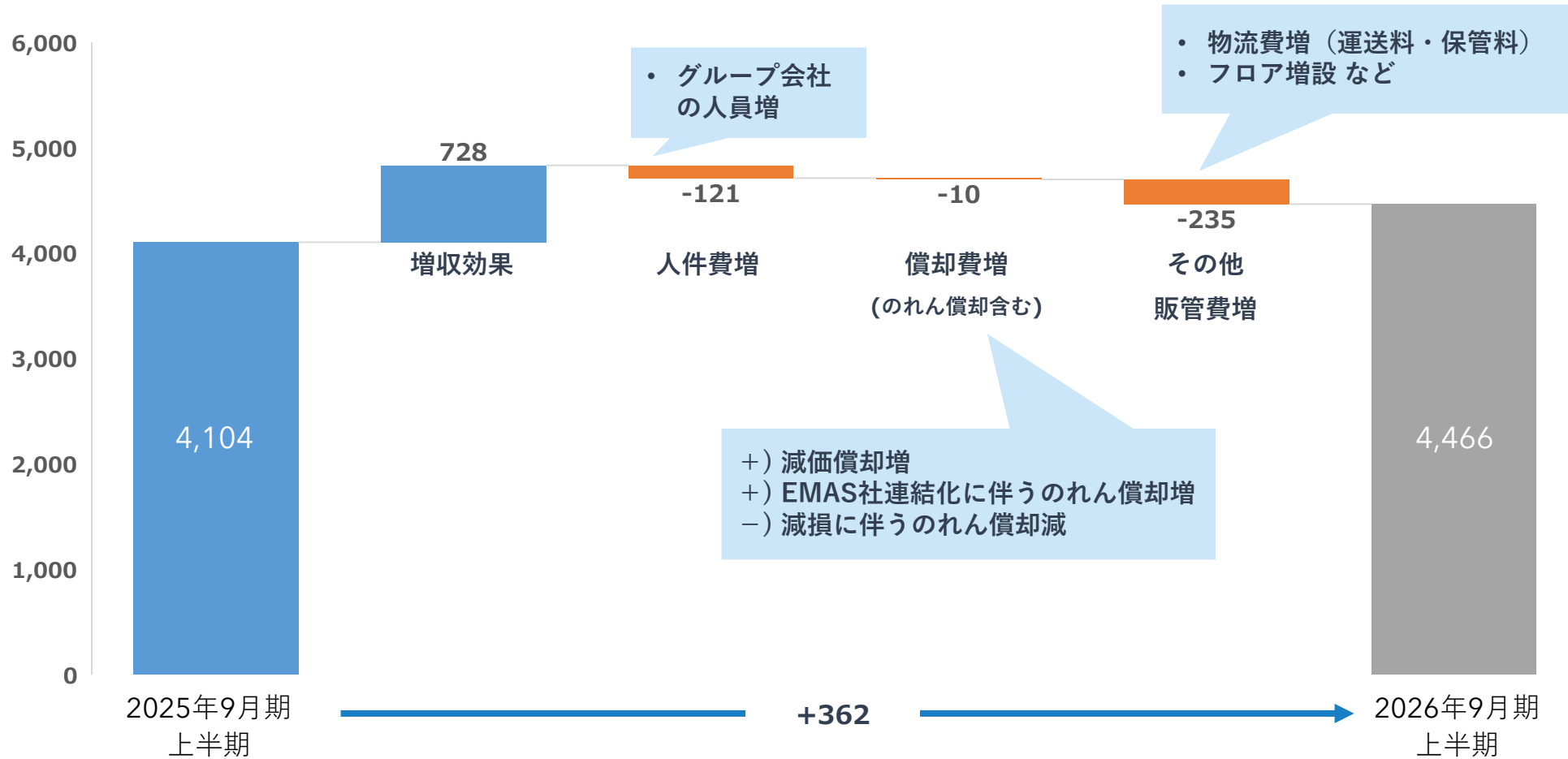
- 売上増加・価格見直し等による売上総利益の伸長に加え、生産性の向上により販管費が抑制され、増益
- 期初通期計画進捗率：営業利益72%、当期利益89.2%と順調、通期業績予想を上方修正（後述）
- 政策保有株式の売却益計上により当期純利益は前期比増加

(単位：百万円)	2025年9月期	2026年9月期			
	上半期	上半期		通期	
	実績	実績	前期比	期初通期計画 (2025/11/10公表)	進捗率
売上高	68,129	70,258	+3.1%	130,000	54.0%
売上総利益 (売上総利益率)	11,815 (17.3%)	12,544 (17.9%)	+6.2%		
販売費及び 一般管理費	7,711	8,077	+4.7%		
営業利益 (営業利益率)	4,104 (6.0%)	4,466 (6.4%)	+8.8%	6,200 (4.8%)	72.0%
経常利益 (経常利益率)	4,410 (6.5%)	4,506 (6.4%)	+2.2%	6,500 (5.0%)	69.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,451	3,657	+5.9%	4,100	89.2%
EPS(円)	119.86	126.93	-	142.31	-

注:2026年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行う予定ですが、1株当たり当期純利益（EPS）については、当該株式分割考慮前の金額を記載しています。

2026年9月期上半期 営業利益の増減要因

(単位：百万円)

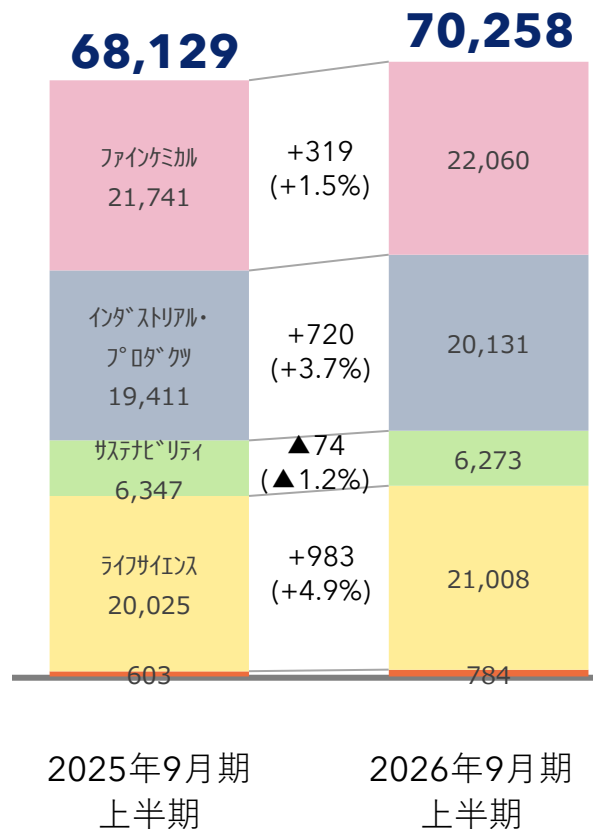


セグメント別 決算サマリー

売上高 前年同期比

+ 21.2億円 (+ 3.1%)

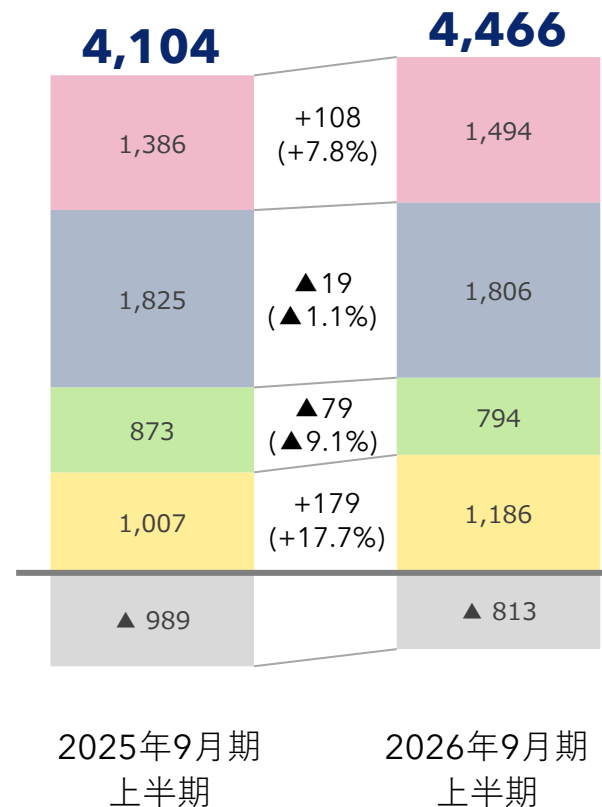
(単位：百万円)



営業利益 前年同期比

+ 3.6億円 (+ 8.8%)

(単位：百万円)



ファインケミカル 増収・増益

インダストリアル・プロダクツ 増収・減益

サステナビリティ 減収・減益

ライフサイエンス 増収・増益

セグメント別構成比率

- ファインケミカル、インダストリアル・プロダクツ、ライフサイエンスが約3割ずつの売上
- セグメントの売上構成・利益構成は前期末から大きな変動なし

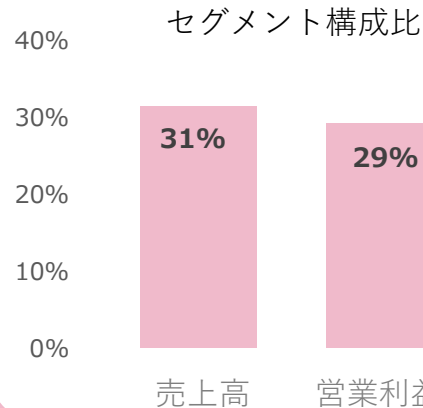
ファインケミカル

分野：合成ゴム、塗料、インキ、コーティング



ゴム関連

化学品関連



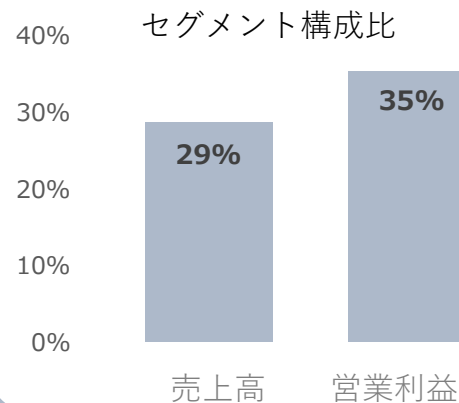
インダストリアル・プロダクツ

分野：あらゆる移動体



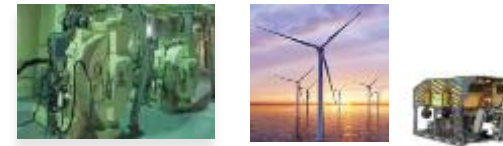
自動車内装部材

スキャニングによる
ベンチマーキングサービス



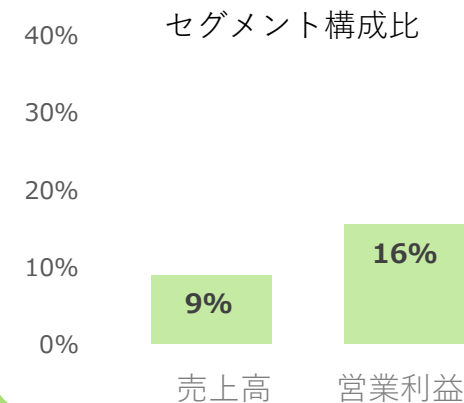
サステナビリティ

分野：再生可能エネルギー（バイオマス、地熱、海洋）、畜産飼料



木質バイオマス関連

洋上風力
海洋調査関連



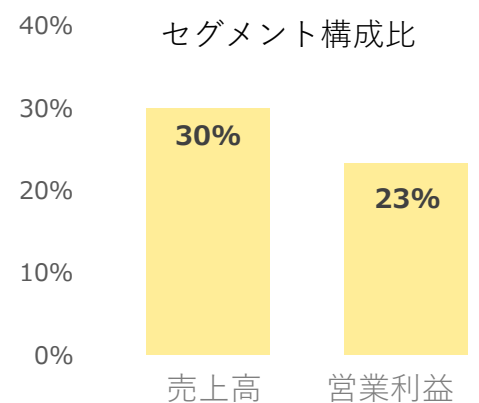
ライフサイエンス

分野：食品添加物、化粧品、在宅医療、科学機器、バイオテクノロジー



電子材料

評価装置



注:セグメント別売上高・営業利益比率は、連結調整前の数値をもとに算出。「その他」を記載していない為、合計は100%となりません。

セグメント別概況：ファインケミカル

(単位：百万円)	2025年9月期 上半期	2026年9月期 上半期	前期比
売上高	21,741	22,060	+1.5%
営業利益 (営業利益率)	1,386 (6.4%)	1,494 (6.8%)	+7.8%

コメント	
売上高	ゴム : +) 国内向け原材料需要が旺盛 化学品 : -) インキ・塗料・接着剤原材料など 国内主力商材の需要弱含みは継続 +) 新規商売の立ち上がり
営業利益	ゴム : +) 売上増加や販売価格見直し 化学品 : +) 販売価格の見直し

【主な取扱い製品】



合成ゴム



熱可塑性エラストマー・樹脂



ゴム補強・充填材

<最終用途>

- ・ 自動車用シール材
- ・ 高圧ホース
- ・ タイヤ
- ・ 家電製品



光重合開始剤/紫外線吸収剤



顔料



スペシャリティモノマー



ワックス



シランカップリング剤

<最終用途>

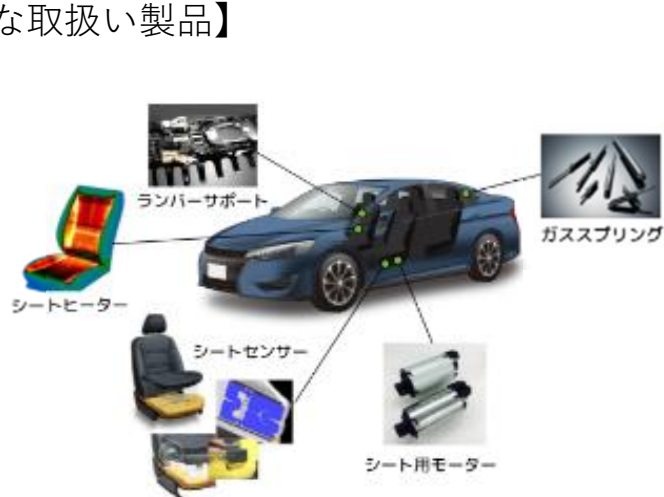
- ・ インキ・印刷物
- ・ 外壁用塗料
- ・ 接着剤
- ・ プラスチック製品

セグメント別概況：インダストリアル・プロダクツ

(単位：百万円)	2025年9月期 上半期	2026年9月期 上半期	前期比
売上高	19,411	20,131	+3.7%
営業利益 (営業利益率)	1,825 (9.4%)	1,806 (9.0%)	▲1.1%

コメント	
売上高	国内：+) 販売堅調 海外：+) 米国アラバマ、タイの一部輸出が好調 +) EMAS社の連結化 -) 中国は厳しい市場環境継続
営業利益	-) 新規商材開発の先行投資 +) 為替変動による利益底上げ

【主な取扱い製品】



スキャンニングによるベンチマーキングサービス



EVバッテリーメンテナンス機器 (EverBlue Drive)

セグメント別概況：サステナビリティ

(単位：百万円)	2025年9月期 上半期	2026年9月期 上半期	前期比
売上高	6,347	6,273	▲1.2%
営業利益 (営業利益率)	873 (13.8%)	794 (12.7%)	▲9.1%

コメント	
売上高	+) 飼料加工機器の関連消耗品販売好調。 木質バイオマス関連事業で大型案件の進捗 -) 海洋開発関連事業の端境期となる影響 地熱関連機材販売も減少
営業利益	-) 上記、海洋開発関連事業の売上減に伴う利益減

【主な取扱い製品】

< 飼料用加工機器・木質バイオマス関連 >

< 洋上風力・海洋調査関連 >

<最終用途>

- ・ 飼料・肥料
- ・ 食品・工業製品等
- ・ 再生可能エネルギー

<最終用途>

- ・ 石油・ガス
- ・ 地熱開発
- ・ 洋上風力発電
- ・ 海洋調査

セグメント別概況：ライフサイエンス

※MS: マテリアルソリューション

(単位：百万円)	2025年9月期 上半期	2026年9月期 上半期	前期比
売上高	20,025	21,008	+4.9%
営業利益 (営業利益率)	1,007 (5.0%)	1,186 (5.6%)	+17.7%

コメント	
売上高	+) MS※:電材など輸出ビジネスの基幹商材が伸長 +) 科学機器:需要回復を背景に大型案件の納入が進展 +) ワイピーテック:機能性飼料原料の販売数量増 -) スクラム:バイオ関連機器の契約終了影響
営業利益	+) MS・科学機器・ワイピーテック好調 -) バイオ関連機器の影響

【主な取扱い製品】

<ライフサイエンス関連>



電子材料



各種フィルム



化粧品(原料/容器)

<最終用途>

- ・ 電子機器／バッテリー
- ・ 芳香剤
- ・ ペットフード
- ・ オムツ



FoodTech



香料



高機能性樹脂

<科学機器関連>



濡れ性評価装置



粒子評価装置



耐候性試験機

<最終用途>

- ・ 研究開発 (R&D)
- ・ 品質管理
- ・ 生産管理
- ・ 検査

<バイオテクノロジー関連>



3Dバイオプリンター



遺伝子解析次世代シーケンサー (NGS)



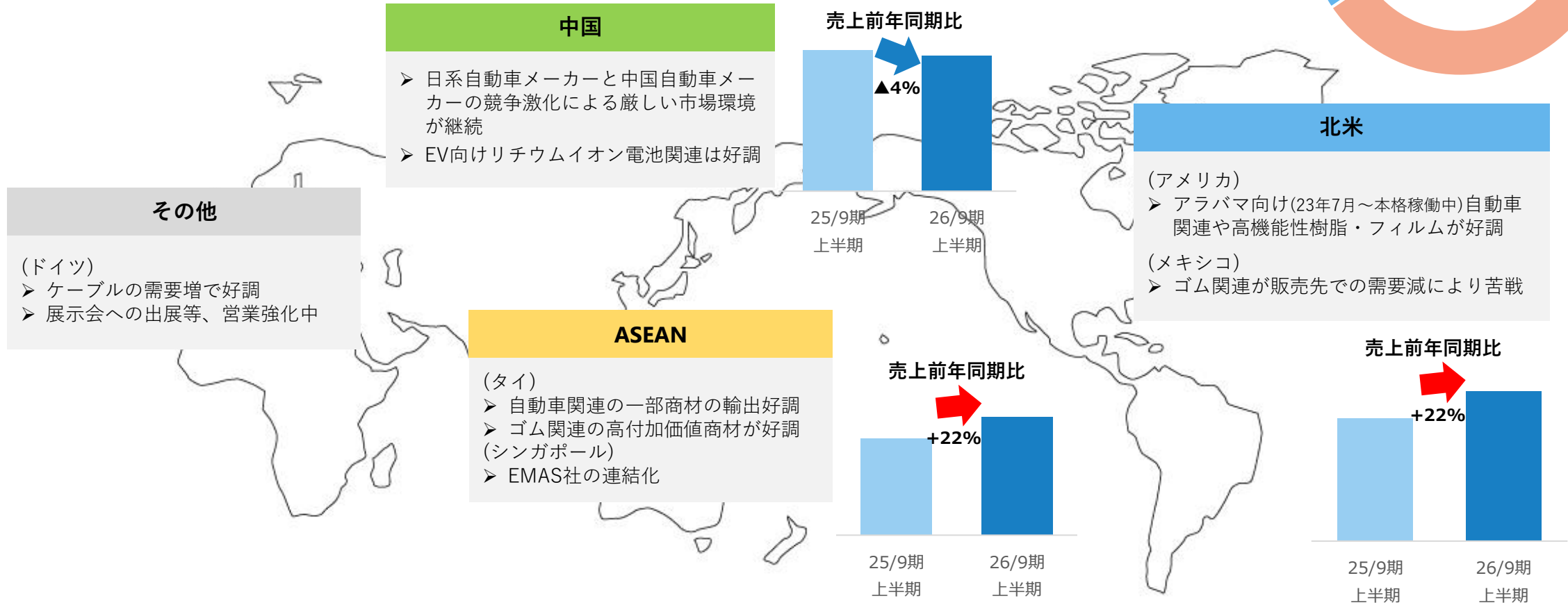
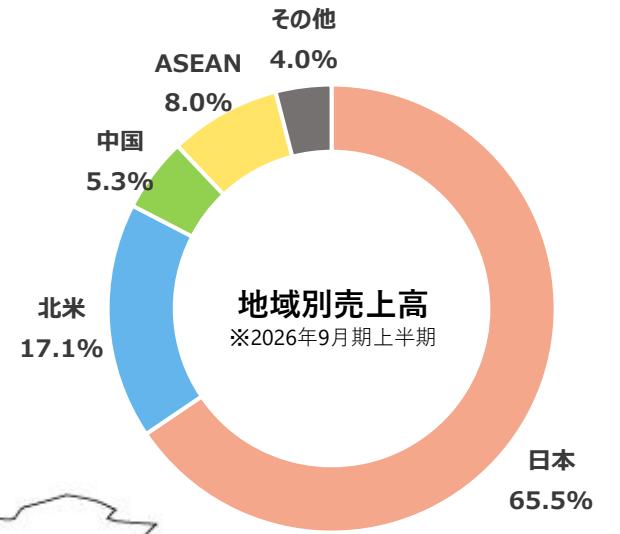
遺伝子発現解析サービス、創業支援サービス

<最終用途>

- ・ 遺伝子研究
- ・ 細胞研究
- ・ タンパク質研究
- ・ 病理研究
- ・ 創薬支援

地域別売上高と状況

- 海外売上前年比+9.0%。北米・ASEAN好調。中国は減収も底入れの兆し
- 海外拠点主導で、地場オリジネーション事業開拓中



02

- 01 2026年9月期 上半期実績
- 02 2026年9月期 通期業績予想
- 03 資本政策関連
- 04 SV2028達成に向けて

2026年9月期 通期業績予想

- 上半期の業績進捗を踏まえ、業績予想を引上げ
- 既存事業の成長・収益性向上により、一部事業の減益影響を吸収し、前年同期比増収増益見込み

(単位：百万円)	2025年9月期	2026年9月期				
	通期実績	期初通期計画 (2025/11/10公表)	前期比	修正業績予想 (2026/5/12公表)	期初計画比	前期比
売上高	132,703	130,000	▲2.0%	133,000	+3,000	+0.2%
売上総利益 (売上総利益率)	22,564 (17.0%)					
販売費および 一般管理費	16,133					
営業利益 (営業利益率)	6,430 (4.8%)	6,200 (4.8%)	▲3.6%	6,500 (4.9%)	+300	+1.1%
経常利益 (経常利益率)	6,879 (5.2%)	6,500 (5.0%)	▲5.5%	6,600 (5.0%)	+100	▲4.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,615	4,100	▲11.2%	4,800	+700	+4.0%
EPS(円)	80.12	71.16	-	83.28	-	-

注:2026年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行う予定です。そのため、1株当たり当期純利益（EPS）については、2025年9月期通期実績、2026年9月期通期予想ともに、当該株式分割を考慮した金額を記載しています。

2026年9月期 セグメント別 通期業績予想

- 中東情勢混乱で予想されるコストアップや供給逼迫は迅速に対応し、影響を最小限に抑える方針
- 継続的に取り組み中の案件の果実化も勘案し、通期業績予想引上げ

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	2025年9月期 実績	2026年9月期 期首予想	2026年9月期 修正予想	前期比	2025年9月期 実績	2026年9月期 期首予想	2026年9月期 修正予想	前期比
ファインケミカル	42,384	44,000	44,750	+5.6%	2,413	2,700	2,800	+16.0%
インダストリアル・ プロダクツ	36,812	35,000	35,750	▲2.9%	2,682	2,500	2,550	▲4.9%
サステナビリティ	13,518	11,500	12,250	▲9.4%	1,886	1,100	1,150	▲39.0%
ライフサイエンス	38,670	38,000	38,750	+0.2%	1,362	1,600	1,700	+24.8%
その他	1,318	1,500	1,500	-	▲1,914	▲1,700	▲1,700	-
合計	132,703	130,000	133,000	+0.2%	6,430	6,200	6,500	+1.1%

03

01

2026年9月期 上半期実績

02

2026年9月期 通期業績予想

03

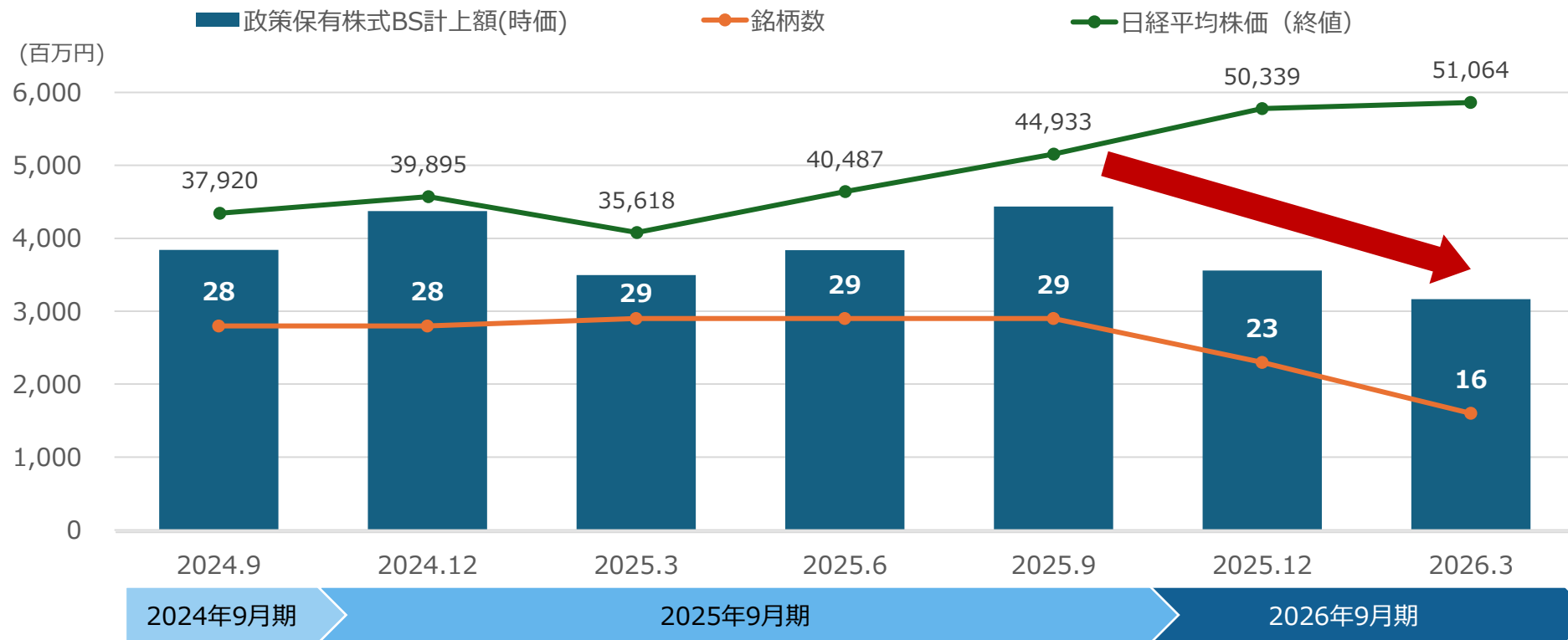
資本政策関連

04

SV2028達成に向けて

政策保有株式の縮減状況

- 前期（2025年9月期）から政策保有株式の縮減を本格化
- 上半期は取引先株式の売却を推進し、投資有価証券売却益として12.4億円計上
- 引き続き、中長期的な観点で保有合理性を判断し、縮減方針を継続
- 縮減後の純資産に対する割合は5%程度



投資有価証券の減損

- 当初の事業計画からの乖離が見られるスタートアップ投資案件において投資評価損を計上
- 各案件を精査し、今後の投資活動・意思決定プロセスに反映
- 投資先に対する定期モニタリングを実施し、取締役会に報告、適時適切な対応を実施

財務健全性の更なる向上

- ・ バランスシートの良質化

「事業」の見極め

- ・ 投資規律の厳格運用（撤退ライン）
- ・ 事業の選択と集中により、成長事業へ経営資源をシフト

資本効率改善

- ・ ROE/ROICなど資本効率指標の適正化

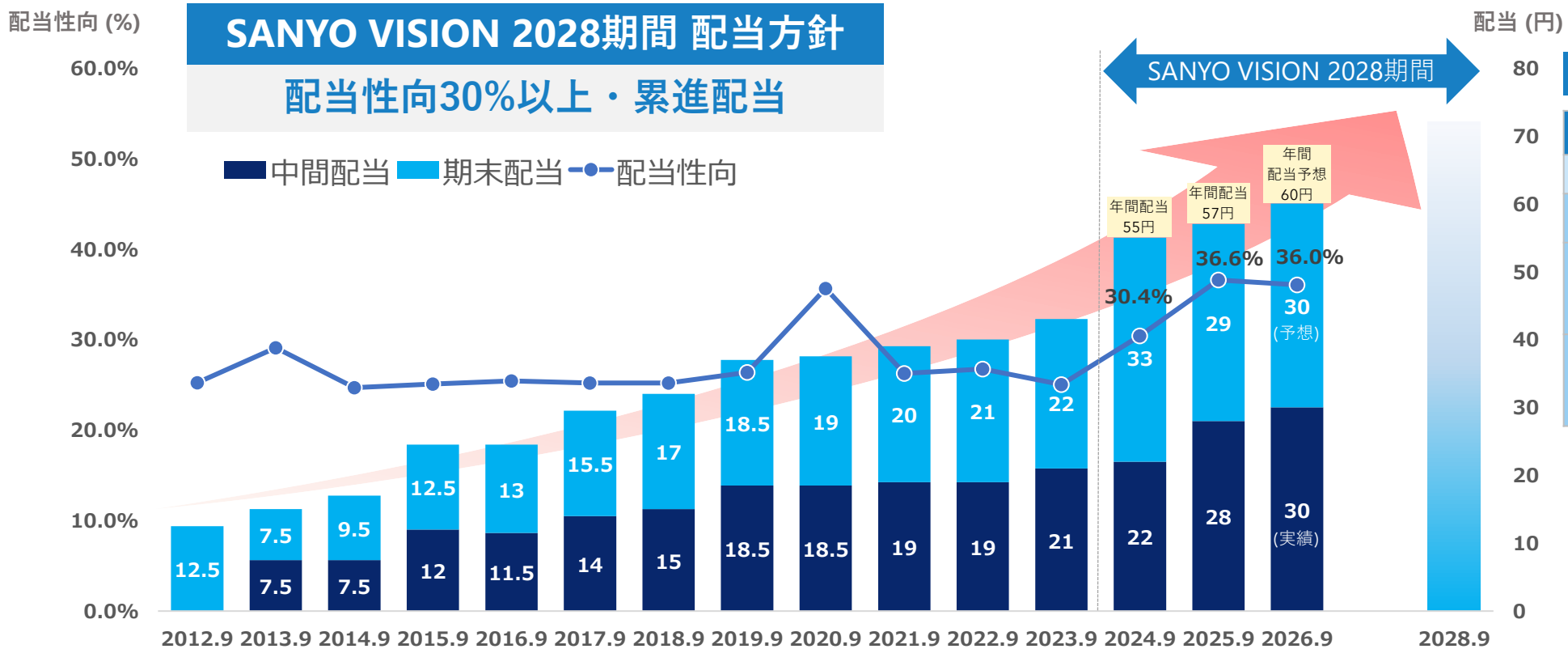
主な減損案件（2025.9期-2026.9期）

- ・ 新素材フィルム開発・製造事業
- ・ バイオ創薬支援事業
- ・ バイオマスシリカ（もみ殻シリカ）開発・製造
- ・ 高齢者施設向け位置情報見守りサービス など

株式分割の実施・株主還元

- 東証が示す「個人投資家が求める投資単位：10万円程度」をターゲットに1:2の株式分割実施
- 上半期の業績好調を受け、中間配当を期初予想から**1円増額**
- 株式分割に伴い、期末配当予想額を修正、株式分割前換算で**1円増額**
- 自社株買いも機動的に検討

< 上場以来13年連続安定配当継続中 >



2026.9期 配当方針

	2025.9		2026.9	
	実績	期初公表	修正後	
中間	28円	29円	30円	
期末	29円	29円	15円 (30円)	
年間	57円	58円	45円 (60円)	

() は分割換算前の配当予想額

※効力発生日：2026年7月1日、普通株式1株につき、2株の割合で分割、2026年9月期の期末配当予想額は株式分割前換算

04

01 2026年9月期 上半期実績

02 2026年9月期 通期業績予想

03 資本政策関連

04 SV2028達成に向けて

成長市場へのマーケットイン戦略

■ 事業セグメントの専門性と横串連携で成長市場におけるビジネス拡大

当社の強み

パートナーシップモデル

高付加価値・ニッチ商材

専門性・技術営業

強固な財務基盤



攻め筋

取扱商材拡充

バリューチェーン拡大

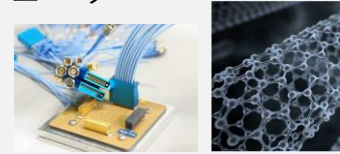
海外展開強化

事業投資・M&A

ターゲット市場 / 商材

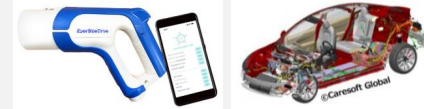
電材（半導体・電池・データセンター）

- ・電材ケミカル
- ・カーボンナノチューブ
- ・LiB電池関連部材
- ・高周波同軸ケーブル
- ・冷却ケーブル



EV

- ・EVバッテリー診断機
- ・ベンチマーキングサービス
- ・機能性配合剤（放熱/難燃用途）



再生可能エネルギー

- ・洋上風力発電関連機材
- ・木質バイオマス関連機材
- ・地熱発電関連機材



フードテック

- ・フードロス削減ソリューション
- ・飼料用ペレットミル
- ・食品添加物
- ・新機能性飼料・飼料添加物

関連セグメント

ファインケミカル

インダストリアル・プロダクツ

ライフサイエンス

ファインケミカル

インダストリアル・プロダクツ

サステナビリティ

サステナビリティ

ライフサイエンス

ゴム関連製品：次世代の基幹商材の拡販

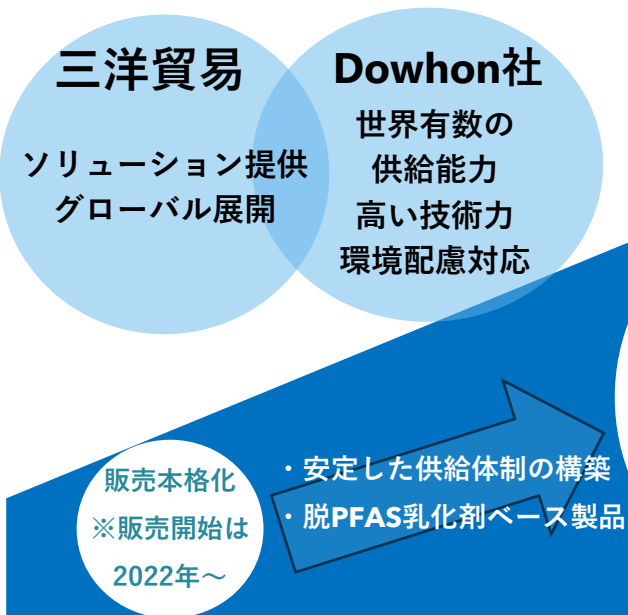
※Dowhon社:

フッ素ゴムに薬品をあらかじめ配合したプリコンパウンドの中国大手メーカー。フッ素ゴムは耐熱性、耐油性、耐薬品性に優れた特性を持ち、自動車のホースほか機能性ゴム部品に使用される。

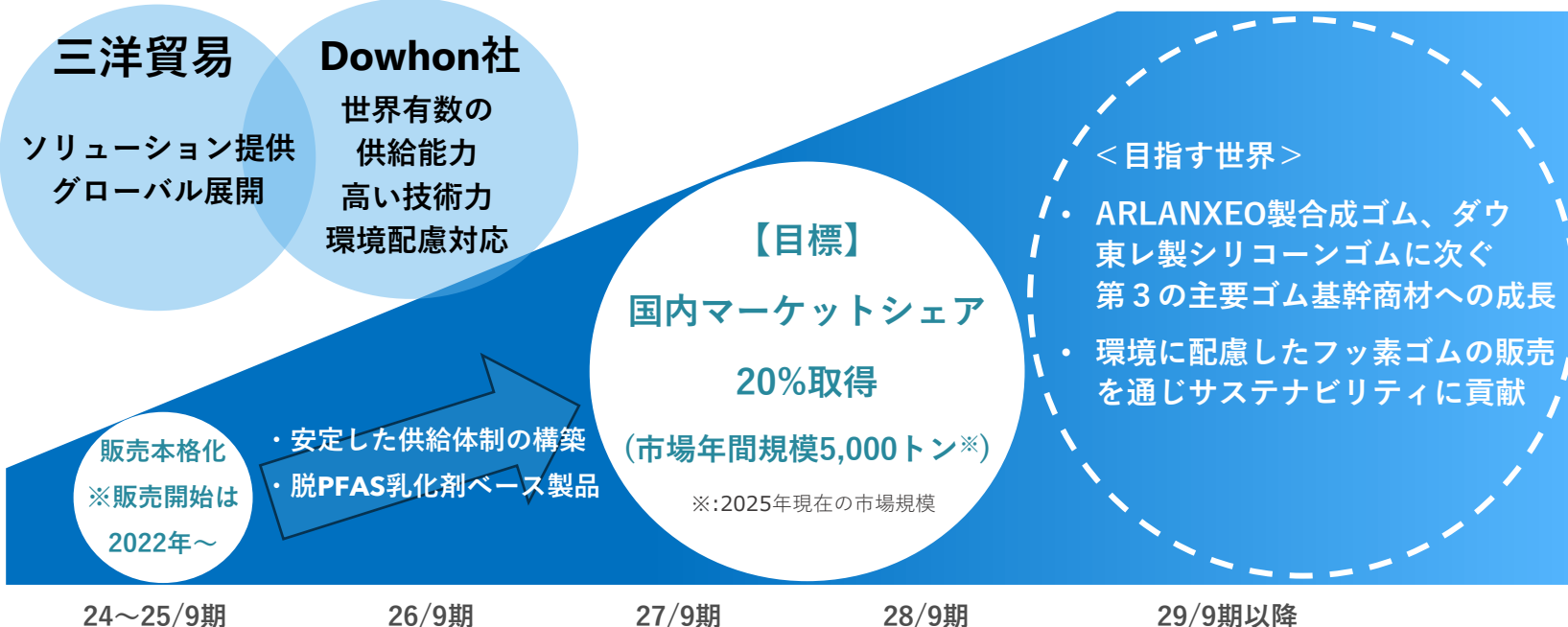


- 中国最大手Dowhon社※製フッ素ゴムの日本総代理店
- 安定供給（年間生産能力1万トン、2027年1.4万トンへ増強）をベースとした日系顧客への拡販活動
- 脱PFAS乳化剤対応フッ素ゴム製品のラインナップによる環境配慮型ビジネスの推進

両社の強みを活かした相乗効果



【市場規模と開拓ロードマップ】



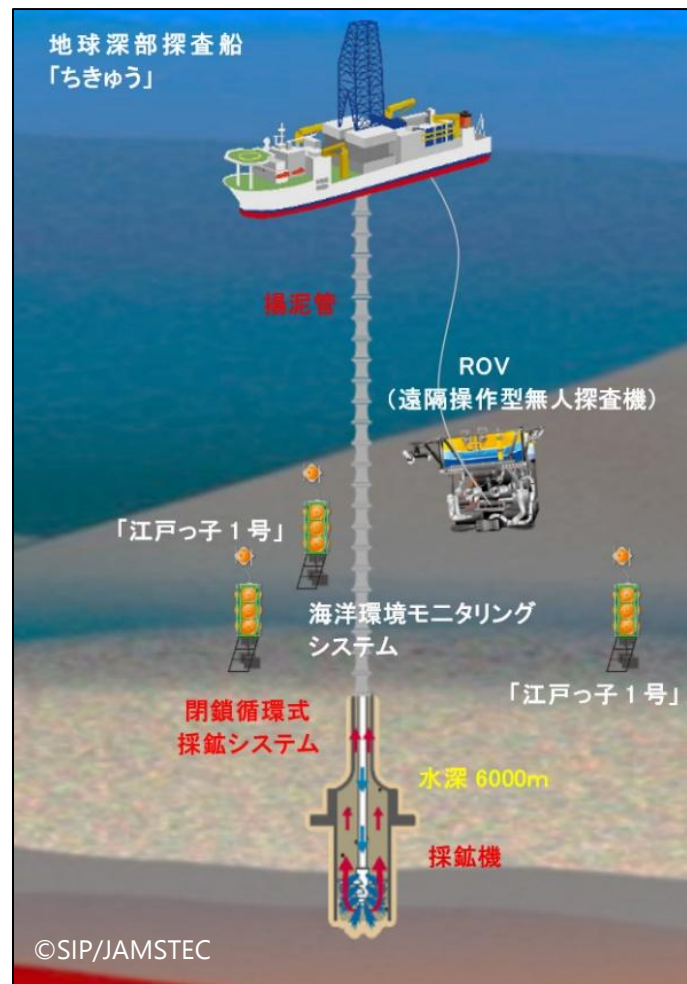
【最終製品の用途例】



自動車部品：燃料インジェクター用Oリング、燃料ホース内面シール、エンジンオイルシール
化学プラント：バルブ用Oリング、ポンプ軸封シール
半導体製造装置：真空チャンバー用Oリング、ガス供給ライン用シール
医療・食品機器：配管フランジ用ガスケット、ポンプ摺動用シール
航空・宇宙：航空機エンジン用耐熱シール

海底鉱物資源事業の展開

■ 南鳥島レアアースプロジェクトに参画～ 揚泥管と浮力体・ROV・採鉱機の納品と技術支援



本格的な採泥試験（令和9年実施予定）の成功に向け全面的にサポート
水深6,000mで確立した圧倒的技術を武器に、レアアース泥をはじめマンガノジュールや熱水鉱床など次世代の海底鉱物資源開発を牽引。海底鉱物資源の未知なる領域を切り開き、海洋ビジネスの成長を加速

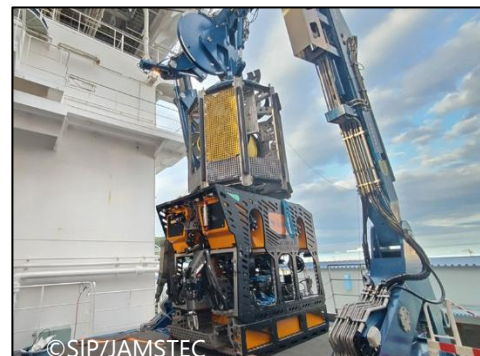
揚泥管：2025年5月末に納品、合計424本



浮力体：2024年8月末に納品、合計820個



ROV：2025年秋に納品、「ちきゅう」へ実装完了 採鉱機：整備完了し2025年冬に納品



洋上風力関連ビジネスの展開

- 水深の浅い海域での着床式案件から始まり、33年頃から深い海域での浮体式案件の増加を見込む
- 浮体式案件増加で必要機材も増加、幅広いラインナップを強みとするコスモス商事の収益機会が拡大
- 2027年9月期以降、着床式から本格的な収益化を見込む

着床式・浮体式における取扱商材



着床式(水深30-40m)

TPカバー
TME(オランダ)

ダビットクレーン
Granada Cranes(英国)

ハンマー
MENCK(ドイツ)

水中点検サービス

ケーブル保護材(CPS)
Balmoral(英国)

パイルグリッパー
OSBIT(英国)

浮体式(水深100m以深)：日本の海域に適合

係留用繊維ロープ
CSL(ブラジル)
Lankhorst(オランダ)

係留用チェーン
GWEC(英国)

リニアテンショナー
Bezemer(オランダ)

水中ブイ
Balmoral(英国)

ROV
(遠隔操作型無人潜水機)

TPカバー・ダビットクレーン・CPS
浮体式でも使用

コネクター
Balltec(英国)

アンカー
Bruce Anchor(英国)
DELP(ブラジル)

セミサブ バージ スパー TLP

洋上風力・海洋調査事業のバリューチェーン拡充 — 戦略的M&Aの実施（北九潜水） —

- 九州エリアで40年以上にわたり海洋調査・点検・工事サービス等を展開する北九潜水の株式を譲受け
- コスモス商事の商社機能（もの）と北九潜水の調査機能（人）を組み合わせたソリューション提供を通じ洋上風力関連・海洋調査事業の新規取引獲得を推進
- 国内における海洋事業の中核企業体を目指しサービス拡充を狙い、更なるM&A・事業投資を推進

北九潜水の強み

- ・ 40年以上の業歴を背景とした九州エリアでの強固な事業基盤
- ・ 潜水士による潜水作業の他、ROVでの調査・点検にも対応
- ・ 本社に水深7mのプール保有、試運転・デモ・人材育成に活用可能



今後の事業展開



バリューチェーンの拡充イメージ



投資戦略

■ 成長分野でボルトオン型のM&Aを推進。具体的な攻め筋は以下の通り

成長投資 200億～ 300億円	事業投資	ファインケミカル	<ul style="list-style-type: none">➢ 海外販路拡大➢ 電子材料関連（商権獲得）➢ 新規商材開発
		インダストリアル・ プロダクツ	<ul style="list-style-type: none">➢ 自動車アフターマーケット関連 （取扱商材拡充、サービス拡充）➢ 環境対応表皮関連投資
		サステナビリティ	<ul style="list-style-type: none">➢ 洋上風力発電関連・海洋調査関連 （取扱商材拡充・バリューチェーン強化）➢ 木質バイオマス周辺事業（取扱商材拡充、サービス拡充）
		ライフサイエンス	<ul style="list-style-type: none">➢ ヘルスケア関連（商権獲得、取扱商材拡充）➢ 飼料添加物関連（販路拡大）
	人的資本投資	➢ 「人のSanyo」のための採用、教育、評価、配置等	
DX関連投資	➢ 基幹システム（2024年10月稼働開始、グループ会社に横展開）		

SV2028達成を支える人的資本投資 -当社グループの「人的資本」体系-

- 当社グループの人的資本とは、「最適解」を徹底的に提供する社員



Appendix

【セグメント別成長戦略】ファインケミカル

■ 当社の祖業。専門性の高い商社機能を活かし更なる成長を目指す

当社の強み

- ・ゴム・化学品分野での幅広い商材の取扱い
- ・日本と海外拠点の連携を通じた地域差のないソリューションを提供
- ・**高付加価値商品を取扱う専門性・技術力**
- ・財務基盤を活かした安定供給力

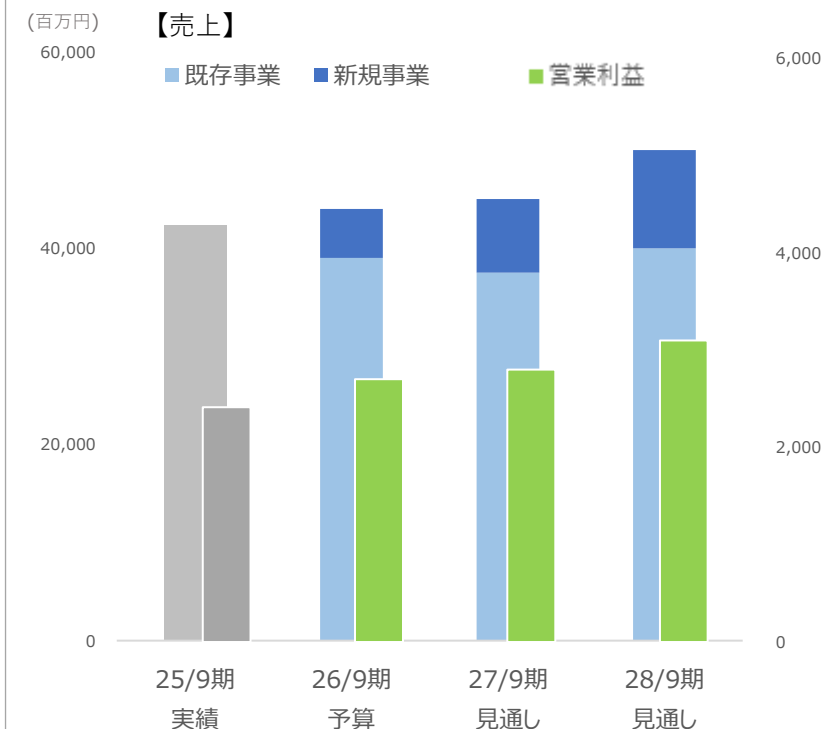
事業環境

- ・国内市場は次世代用途、機能性商材への需要を除き成熟化の一方で、海外市場は拡大継続
- ・**海外サプライヤーは日本市場への投資を絞り、商社に高い専門性・技術対応力を求める動きが進展**
- ・EV化による新たな市場の創出（バッテリー等）
- ・環境対応品への切替加速



業績見通し

売上(既存・新規)・営業利益 実績および見通し
【期間：2025年9月期～2028年9月期】



基本戦略

- **海外サプライヤーとの関係深化**
- **海外展開強化 (日系メーカー・海外現地企業)**
- 高付加価値／環境対応商材の新規拡売
- 得意分野への投資拡大
- DX化による小規模商売の効率化

計画達成の鍵となるファクター

- **海外サプライヤーによる代理店集約 → 商権獲得**
- 国内合成ゴムメーカーの再編 → 取扱シェアアップ
- 海外での日系自動車のシェア維持 → 自動車部品メーカーへの販売維持

ビジネス

既存

- (ゴム)ARLANXEO社合成ゴム、ダウ東レ社シリコンゴム
- (化学品)インキ・塗料・コーティング・樹脂・接着剤原料

新規

- (ゴム)ダウホン社フッ素ゴム、機能性素材、天然由来素材
- (化学品)環境対応素材、電材ケミカル

【セグメント別成長戦略】 インダストリアル・プロダクツ

■ 当社の収益の大きな柱の一つ。新規事業を育成し、事業PFの入替を推進

当社の強み

- 営業・開発設計・品質保証およびジャストインタイム納入までの一気通貫サービス提供
- 全ての日系自動車メーカーとの取引関係構築
- 自動車内装部材ビジネスで蓄積した知見
- 財務基盤を活かした安定供給力

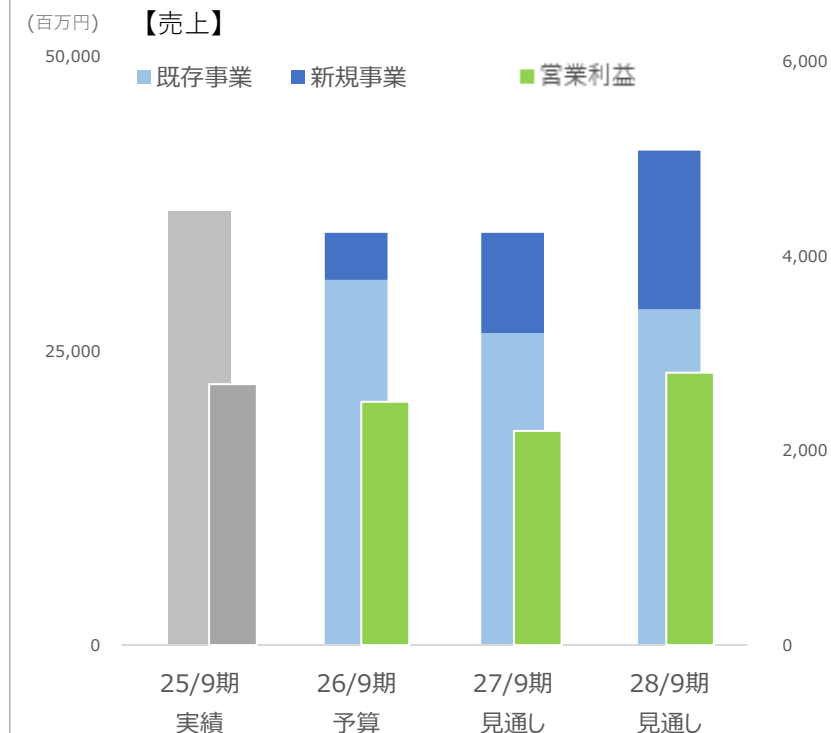


事業環境

- EV化、自動運転、MaaSなどの技術革新による世界の自動車産業の構造変化
- 既存商売のコモディディ化・競争激化
- 非日系自動車メーカーの伸長
- 半導体／データセンター／量子コンピューターなど情報通信分野の市場拡大

業績見通し

売上(既存・新規)・営業利益 実績および見通し
【期間：2025年9月期～2028年9月期】



基本戦略

- 既存ビジネスの堅持
- 海外自動車メーカーとの取引強化
- バリューチェーン機能の多角化 (新車部品市場からアフターマーケット市場へ)
- 新規商材の開発、日本市場への導入

計画達成の鍵となるファクター

- 米国の通商・関税政策の動向 → 利益への影響
- 海外での日系自動車のシェア維持 → 自動車・部品メーカーへの販売維持
- 中国プラスワンの供給体制強化 → 調達先の多様化

ビジネス

既存

- シートヒーター、ランバーサポート等の自動車内装材

新規

- 自動車ベンチマーキング、EVバッテリーテスター、環境対応表皮、
- 高周波同軸、光ケーブル (次世代データセンター・半導体分野向け)

【セグメント別成長戦略】サステナビリティ

■ 再生可能エネルギー市場拡大を追い風とした事業成長

当社の強み

- ・ プラント設計/施工からアフターサービスまでの一貫したトータルソリューション提供
- ・ 国内飼料用ペレットミルでの圧倒的シェア
- ・ 地熱開発の機器納入での高シェア
- ・ 洋上風力発電関連機材の幅広いラインナップ

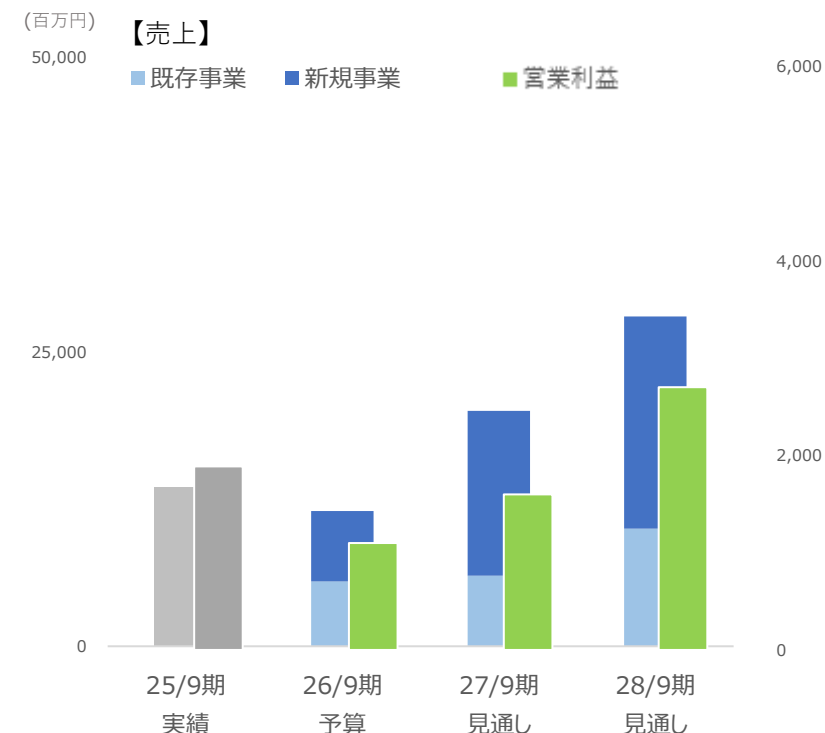


事業環境

- ・ 飼料製造現場での自動化・効率化の加速
- ・ 電源構成の脱炭素化と再エネシフトの進展
- ・ 大手電力による再エネ事業強化の潮流
- ・ 着床型から浮体型への洋上風力シフト

業績見通し

売上(既存・新規)・営業利益 実績および見通し
【期間：2025年9月期～2028年9月期】



基本戦略

- 高いシェアを背景とした設備更新需要取り込み
- 機材のアフターサービスによるストック収益強化 (ペレットミル・木質バイオマス)
- ペレットミルの新たな用途開発 (ex.有機肥料事業)
- 洋上風力発電案件での大型プロジェクト獲得 / 商材多様化
- 海洋資源開発事業・洋上風力発電事業でのバリューチェーン拡充 (M&Aも選択肢)

計画達成の鍵となるファクター

- 飼料工場統合・再編に伴う大型投資の加速 → 設備更新需要獲得
- 再生可能エネルギープロジェクトでの事業収益の安定 → 市場拡大

ビジネス

既存

- ペレットミル
- 地熱開発関連機材

新規

- 木質バイオマス関連機材
- 海洋資源開発・調査関連 / 洋上風力発電関連機材
- 新素材フィルム

【セグメント別成長戦略】ライフサイエンス

■ 成長市場向けのQOL・環境対応品の発掘と育成

当社の強み

- ・グローバルな事業基盤で各拠点と連携したビジネスを展開
- ・**先端技術を支える素材と機器の取扱い**
- ・高付加価値商品を取扱う専門性・技術力
- ・財務基盤を活かした安定供給力
- ・免疫のバイオインフォマティクス、情報・構造解析

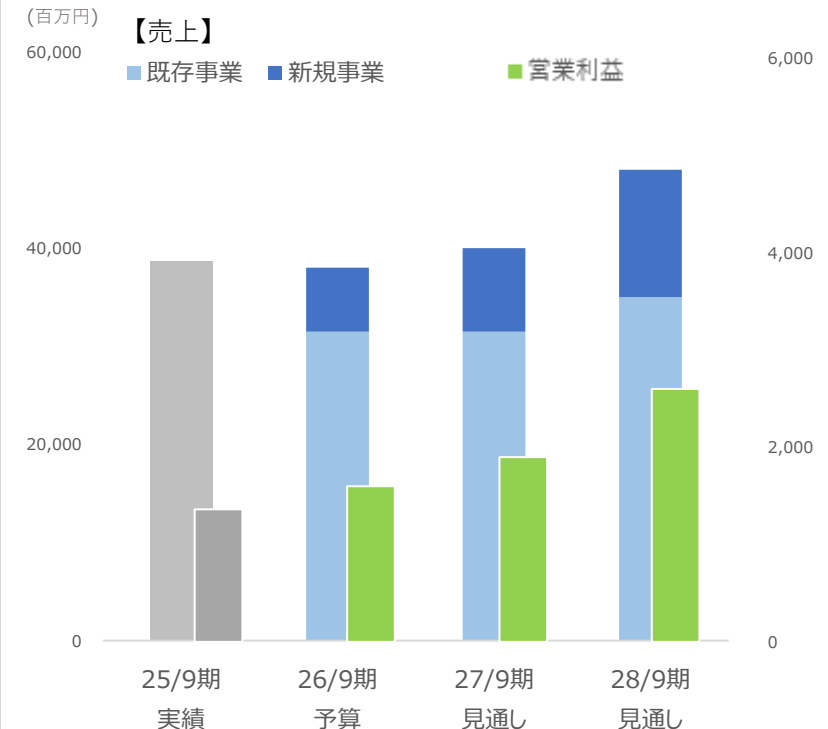
事業環境

- ・「テクノロジー」「健康」「環境」の共創による持続可能な社会
- ・研究開発支援の強化（予算確保、補助金等）
- ・計測ニーズ変化（ex.日本自動車規格改定・EV化）
- ・**EV化による新たな市場の創出（バッテリー等）**



業績見通し

売上(既存・新規)・営業利益 実績および見通し
【期間：2025年9月期～2028年9月期】



基本戦略

- 国内外サプライヤーとの関係深化
- 日本・海外拠点連携によるグローバル展開の推進
- デジタルマーケティング・アプリケーション提案営業による拡販・効率化
- 産学連携の推進による事業開発
- **取扱商材・販路拡充（M&A、一部出資）**

計画達成の鍵となるファクター

- **国内外サプライヤーの生産・供給再編 → 市場変化**
- **EV化の進展 → 新たな市場創出**
- 国内バイオ産業の発展 → 市場拡大
- 米国の通商・関税政策の動向 → 利益への影響

ビジネス

既存

- 電材、フィルム、SAP、界面活性剤、放熱分野素材
- 科学機器 バイオ関連機器/試薬


新規

- LiB関連部材
- 新規機能性飼料
- 食品添加物

飼料添加物関連事業の強化 —九州ミタカのM&Aによる九州エリア強化—

- 畜産県である南九州3県（熊本、鹿児島、宮崎）での市場シェア拡大を目指し、とりわけ熊本県で独自の販売チャネルを持つ九州ミタカ社の株式を譲受
- 九州ミタカの販路（酪農協・組合、農業法人）にワイピーテック製品を販売し熊本での売上を拡大

会社概要

- 会社名 : 株式会社 九州ミタカ  九州ミタカ
- 事業内容 :
 - ・飼料・飼料添加物 卸売販売
 - ・畜産用機材 卸売販売
 - ・畜産用医薬品 卸売販売
- 設立 : 1983年5月（41年）
- 株式譲受日 : 2025年10月31日

取扱商材

◆ 飼料添加物



- ・総合プレミックス
- ・アミノ酸製剤
- ・油脂製剤
- ・その他機能性添加剤

◆ 畜産用医薬品

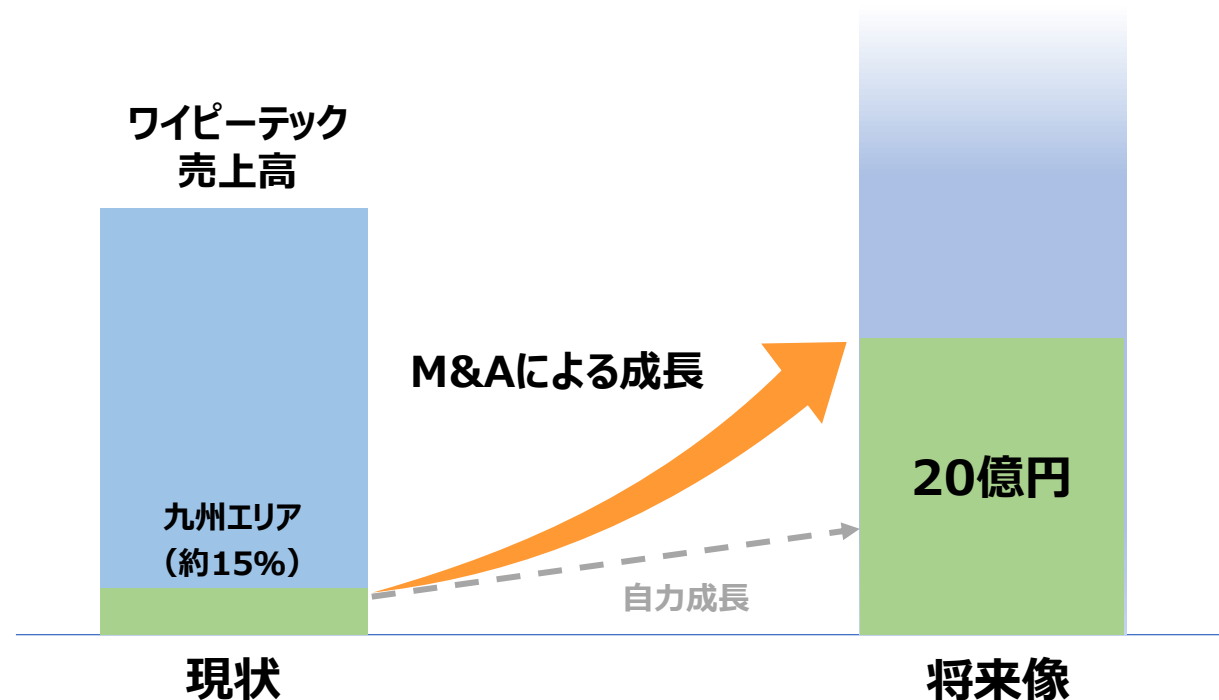


◆ 畜産用機材



- ・畜産用大扇風機
- ・畜産用細霧システム
- ・その他畜産資材

将来の売上成長イメージ



連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2025年9月期4Q (2025.9末)	2026年9月期2Q (2026.3末)	負債の部	2025年9月期4Q (2025.9末)	2026年9月期2Q (2026.3末)
現金・預金	11,896	13,179	支払手形・買掛金	12,544	14,280
受取手形・売掛金等	26,409	26,964	短期借入金	2,960	1,760
棚卸資産	26,387	27,979	その他流動負債	12,600	13,742
その他流動資産	5,221	6,440	長期借入金	100	100
有形固定資産	3,464	3,333	その他固定負債	1,968	1,862
その他固定資産	8,116	7,759	純資産	51,321	54,420
資産合計	81,496	86,165	負債純資産合計	81,496	86,165

【ポイント】

- 政策保有株売却による利益計上、借入返済を推進

	2025年9月期4Q (2025.9末)	2026年9月期2Q (2026.3末)
有利子負債比率	6.0%	3.4%
自己資本比率	62.9%	63.1%

算出方法) 有利子負債比率 : 有利子負債 (※1:リース債務除く) ÷ 自己資本 (※2)
自己資本比率 : 自己資本 ÷ 期末総資産

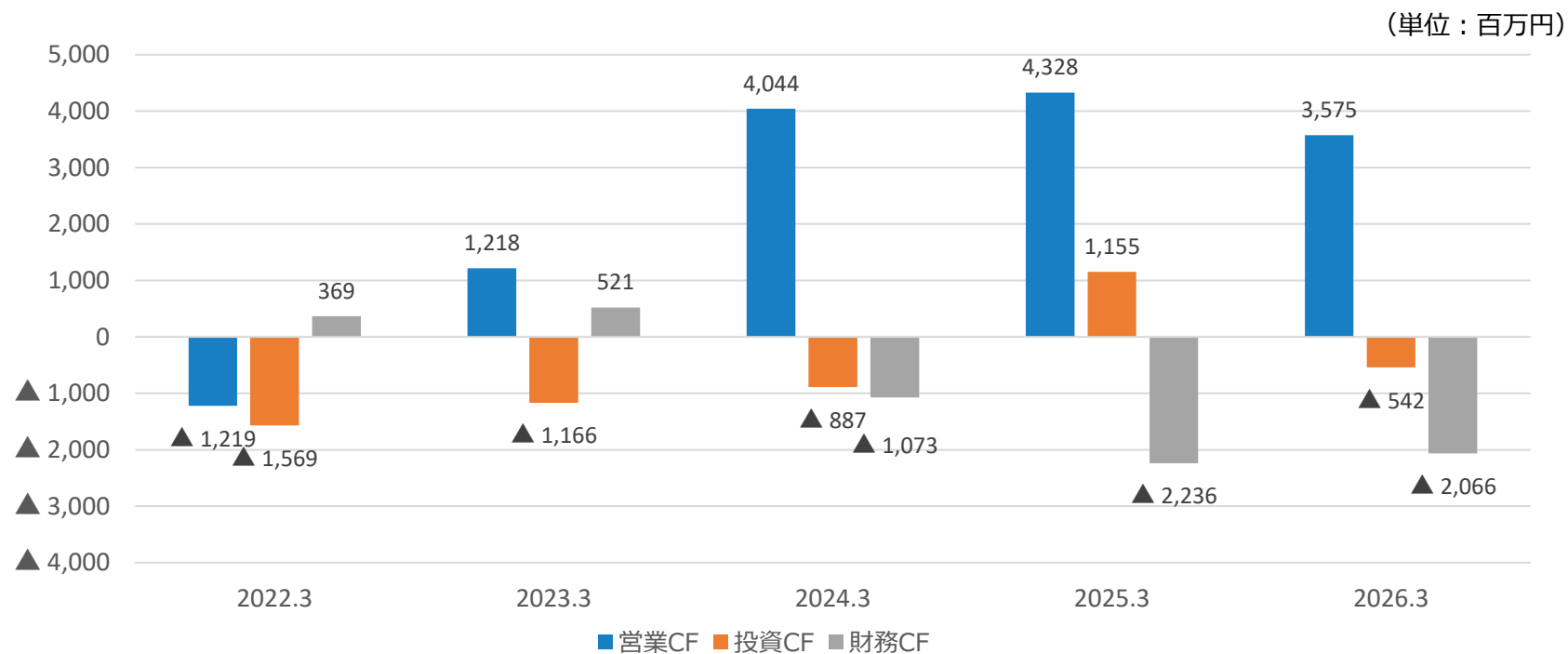
(※1) 有利子負債 = 短期借入金 + 長期借入金
(※2) 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 非支配株主持分

連結キャッシュフロー

営業CF：適切な在庫管理等により黒字継続

投資CF：M&Aや事業投資による支出

財務CF：配当金の支払や短期借入金の返済



	2022.3	2023.3	2024.3	2025.3	2026.3
営業CF+投資CF+財務CF	▲2,419	573	2,082	3,246	966
現金及び現金同等物の残高	6,605	6,218	8,895	10,664	13,083

お知らせ

公式SNS
はじめました



<三洋貿易公式 Instagram>



QRコードを読み取って
フォローをお願いします。

<三洋貿易公式 X>



QRコードを読み取って
フォローをお願いします。

スポンサードレポート
当社IRサイトで公開中

<https://www.sanyo-trading.co.jp/ir/>



IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 取締役兼執行役員 経営企画部長 難波 嘉己

電話：03-3518-1052 e-mail：ir@sanyo-trading.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

Quest for Next